

# ふるさと奥尻通信

令和6年6月31日  
奥尻町教育委員会発行  
事務局:01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

## 巻頭言

孤立環境で独自進化することを「ガラパゴス化」という。ガラパゴス諸島で動物が独自進化した事に由来する。日本の「ガラケー」などもそう。動物が奥尻島で変化するのか。気になるところ。

## 特集 ハクビシンの謎

奥尻島に生息する中型哺乳類としては、タヌキ、ミンク、ハクビシンが知られています。これらは、人の手によって島内に持ち込まれた動物であると考えられ、国内外来種とも位置づけることができます。導入の理由を探ると、中国との戦争が本格化した昭和12年以降、兵隊が着用する軍服の需要が増加し、材料となる毛皮が大量に必要なことにより由来すると想定されます。島内で盛んに養殖して、毛皮を獲ったものの、途中で逃げたり戦後に事業が終わり野生化したという訳です。当時はキツネの養殖もおこなったようですが、こちらは野生においては絶滅してしまい、生息していません。

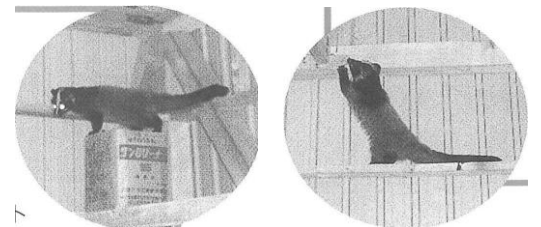
さて、話題のハクビシンですが、この動物は東南アジア方面に生息するジャコウネコ科の哺乳類で、元々は熱帯・亜熱帯地域にて進化してきましたので、本州はともかく、寒冷な北海道に生息していないとされてきました。ところが、奥尻島では1984年の12月に長浜海岸で死骸(車に轢かれたか)が発見され、世間を騒がせました。この個体は国立科学博物館に保管されており、専門家の計測が成されています。

奥尻島でのハクビシン発見例

1984年12月13日	長浜海岸	幼獣 死骸
2000年4月4日	球浦地区	幼獣 死骸
2002年1月18日	赤石地区	成獣 写真
2020年2月15日	球浦地区	足跡
2024年6月9日未明	神威脇地区	幼獣 動画
他、目撃例は青苗、米岡地区で多数あり		



2020年2月発見の足跡(表 溪太氏撮影)



2002年1月18日発見の個体



1984年12月13日発見の個体



2000年4月4日発見の個体

発見される度に地元では広報誌に載ったことから、一躍有名になりました。過去3回の発見例は当時の「広報おくりし」に掲載(写真参照)されていますので、町役場のHPで閲覧できます。

さて、島内では6月9日未明にハクビシンが確認されましたが、今回はなんと初めて動画として撮影されました。神威脇地区のパークゴルフ場付近の道路をゆっくりと歩きながら、エサを探しているような場面が映っています。一瞬振り向いた時に特徴的な白い鼻筋が確認できました。撮影した地域おこし協力隊員の高田茉奈さんは「初めてハクビシンと遭遇して、特徴的な鼻筋が見えたので夢中でカメラを回しました。興味深い生態について知見を深めたいです」と意気込んでおり、2匹目の発見も近いかもしれませんね。

一方、奥尻島の野生生物を調査研究している、北海道博物館の表溪太学芸員は「間違いなくハクビシンで、若いオスに見えます。初公開映像と言ってよいでしょう。調査では断続的に痕跡を確認しており、安定的に世代交代するだけの個体数が生息していると考えられますが、目撃されるのは珍しいですね」と興味深げでした。こちら本格的調査がなされるかもしれませんね。

今のところ、奥尻島にハクビシンが渡った経緯ははっきりしないのですが、先に触れたような毛皮目的の養殖または、なんらかの人為的な影響により島内に持ち込まれ、ある程度繁殖したのが現状であろうかと思われます。このように謎の多い動物であるハクビシン、雪の降る厳冬期もある島内でどのような生態で暮らしているのか、興味は尽きません。

みなさまからのハクビシン情報をお待ちしております。



2024年6月9日未明撮影の個体

### ●参考文献

- ・尾曲香織ほか 2022「北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究」中間報告『北海道博物館研究紀要』第7号
- ・尾曲香織ほか 2024「北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究」実施報告『北海道博物館研究紀要』第9号
- ・増田隆一 2024『ハクビシンの不思議 どこから来て、どこへ行くのか』東京大学出版会
- ・上埜賢 1974『銃後のたより』私家本



遺跡の範囲

奥尻島の遺跡は32ヶ所発見されていますが、奥尻空港滑走路手前の海岸部には「米岡5遺跡」があります。ここは島内でも珍しく西海岸の海岸砂丘部に立地します。ここは防風浜(通称:ぶはま)と呼ばれる場所で、小規模ながらも砂丘が形成されています。その砂丘に埋もれるように擦文時代(8~12世紀頃)の土器が見つかっています。一部は昭和50年代に砂取のために大きく削られましたが、今ではほとんど人が立ち入らない秘境になっています。冬場は強烈な西風と波が打ち寄せるため、砂浜ごとどんどん削られてしまいますので、歴史の解明も時間との勝負です。



学芸員オス  
スメの一冊を  
ご紹介しま  
す。本は海洋  
研修センター  
図書室で借り  
られます。

つながるアイヌ考古学  
関根達人

アイヌ新法が制定されたものの、ネット界限では否定的な言説が見られる。聞こえのいい論調に安易に流れてはいけぬ。先ず知識を得ねば、判断など出来ないはずだ。そんな時、適切な入門書が必要であり、身近な話題に多く触れた内容が望ましい。そんな読者の要望に応えるのが本書。アイヌ文化成立前の歴史から説き起こし、最新の発掘例も紹介。

奥尻の釣り 2024年春号

気がつけば初夏、あっという間に過ぎてしまった春の釣りシーズンを総括してみます。3月上旬は暖かい日が多かったのですが、下旬以降は冷え込んでしまいました。春のホッケは例年通り回遊してきて、弁天岬や漁港内で釣れていました。4月いっぱいくらいまでは奥尻港や青苗港でカレイが好調、5月連休後は一休みで静かになってしまいましたが、6月初旬くらいまでチラホラ上がっていました。その間、赤石港ではヤリイカねらいの赤いライトが連日ウロウロと。沖はともかくとして、磯のソイ類は薄かった印象です。4月、弁天岬のガヤの大きなアタリが少なかったのは残念でした。サーフでは80cm級のヒラメが釣れたようで、さぞ強烈なアタリと引きがあったことでしょう。いつかは上げてみたいものです。

昭和奥尻生活詩 冬休みの生活 第7回

釣石尋常小学校高等科一年生 文集「島の子」第三号

えのをる刻へど持そ踏ぐ持父ボ思な目てか  
る島スとよな、っれんっがンんはいり十日  
様へコかりるポてをでとて来ヤたが直た居  
に投ッるも程ん来見の押やたり。すぐがたか  
。げ。づ。カ。や。ト。て。た。る。し。り。の。考。十。行。ら。ら  
る。で。と。を。っ。、。父。の。て。始。で。え。日。も。け。へ。、。十  
、。小。起。入。ば。俺。一。は。で。や。め。、。て。か。ん。る。毎。母。四  
結。屋。き。れ。り。の。こ。、。固。る。た。早。い。ら。で。に。日。が。日  
局。の。て。な。老。前。れ。コ。く。け。、。速。た。昨。な。、。投。小。迄  
春。破。来。い。寄。に。で。マ。て。れ。ス。ス。ら。日。い。親。げ。言、  
に。目。た。で。だ。投。や。ザ。駄。も。コ。コ。、。迄。一。に。れ。ば。遊  
土。か。、。引。一。げ。れ。う。目。も。ッ。ッ。其。の。と。口。に。言。ん  
が。ら。そ。っ。、。た。一。エ。だ。毎。ブ。ブ。處。事。、。答。、。っ。で  
肥。裏。れ。ば。先。、。を。日。を。を。へ。を。え。今。ば

つづく

をで続た参が祭六さ尻し  
願すい。拝なり月れま、奥今年  
いので明行く一にるる七尻年  
までい治事なは十こと月三から  
す、る二のつ町二ととに大ら  
。末歴〇姿た主日と祭開祭奥  
永史年にた催のなり催り尻  
くのよ戻めのり一さ一名物  
続長りり、協賽まにれが物  
くい法ま元賛のし一終だ  
こ行要し々行河た本了  
と事がの事原。化奥た

賽の河原お詣り



旧庁舎最終日のカレンダーと木札

の尻ここせ更木やをを回さわ  
とのとれまに札「感取れな役  
思歴でかし当な庶町じしたく場  
い史しらた時ど務一たま絵な引  
まをよは。の。係とのし画っつ  
す紡う展役霧手長書はた、た越  
。い。示目囲書一ぎ、。記旧し  
で引資を気きと直一中念備に  
くき料終を文書し奥で品品伴  
れ続とえ感字かた尻もなやい  
るきなてじがれ黒村歴ど寄、  
も奥る、さ尚た板一史を贈使

色々引き取りました

きし多決かす塞く事をるな  
たしめら、翁い前付のり今年  
着とら幸とがきま備てはアは  
と実いれかい馬ま備てはアは  
こにうま不う、せえはなク本  
る物言せ幸戒禍んはいいいシ  
で事業んかめ転ねなるかデで  
す。をもね、もじ。か。の。と。ん  
。進あ。一。あ。て。人。な。で。思  
り好概り福間かすい。が  
てま事にまと万上。が。起。そ  
いす魔はすな事手、気され

新水之記録(編集後記)

贈も史たの海の老庁の興使舎  
呈言を強台道奥体舎建事用がつ  
しえ築者風南尻では築業開完い  
たまいで十西大し昭物以始成し  
いすてし八沖火た和と降し、奥  
気。きた。号地、が三。な。で。ま  
持町た。に。震。平、十。り。は。し。五  
ち政生奥も、成同一。ま。た。月。役  
で功き尻耐同五三年し最。七。場  
す。労証町え十年十竣。た。大。震。日  
。賞人。の。て。六。の。八。工。規。災。よ  
を。と。歴。き。年。北。年。の。旧。模。復。り。庁

役場新庁舎供用開始



今月の一枚

アサギマダラ第1号 5月14日無縁島海岸